

科目名	アカウンティング論特講	担当者	タテミヤ 建宮 ツトム 努	期間	通年	単位数	4
-----	-------------	-----	---------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	<p>本講座は、ビジネスのグローバルルールであるアカウンティング（会計）について、国際的な観点と歴史的な視点を持ってその成り立ちを理解し、国際言語である英語での会計用語の理解も含め以下のような能力や知識を身に着けることを目的とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 国際的な会計の成り立ちの歴史と背景を理解し、現在と未来について会計的な視点での問題点と解決策を提案することができる。【A-2:4】 2 当たり前のように定義されている現代国際会計の前提について、論理的・批判的な視点から見つめなおし、自らの視点を提示することができる。【A-3:4】 3 IFRSを会計基準として採用しているグローバルカンパニーの英語の決算書を読み、その企業の課題を理解するとともに自分なりの改善策を考察することができる。【A-4:4】 4 自らが所属する企業、または関係性のある企業の基本的な財務分析を行い、課題を発見し、その課題の原因と解決策について関係者とコミュニケーションすることができる。【A-6:4】 【日本大学教育憲章ルーブリックの該当番号】 		
到達目標	<p>【一般目標 (GIO)】 現代の国際的な会計システム成立の歴史的背景を理解した上で、日本語だけでなく、英語でも財務諸表から問題点を把握し、改善策を提案できる能力を身につける。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】</p> <p>SBOs 1 歴史的な視点を持って、アカウンティング領域の課題を認識できる (知識・想起)</p> <p>SBOs 2 アカウンティングの課題に対する自発的な資料の探索ができる (技能)</p> <p>SBOs 3 基本的な財務分析計算が日本語および英語でできる (技能)</p> <p>SBOs 4 英語の財務諸表分析から、課題の発見と改善策提案ができる (知識・問題解決)</p> <p>SBOs 5 自らが関係する企業について会計的課題の発見と解決策提案ができる (態度)</p>		
学修方略 (方法)	<p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Manaba folio を利用して、インタラクティブな個別指導を受ける ・レポート作成上で想起された疑問点については関係会社の担当者にも疑問を投げかけてみる。 <p>【学修方略 (LS)】</p> <p>早めの初稿提出およびManaba folio での講師への質問により、自分の中で抱えることなく理解の早期化を図ること。</p> <p>【学習時間】 1本のレポート作成に最低45時間の学修時間を要する。 基本教材および参考図書学習【20時間】レポート執筆【10時間】レポート完成までのインタラクティブな教員とのやりとり【15時間】</p>		
スケジュール	<p>前半は、6月末までに基本書および参考図書を読了し、レポート課題1については7月中旬、レポート課題2については8月中旬までの初稿提出を目標とすることを勧める。9月下旬の最終提出直前に初稿を出すことのないよう、計画的に進めてほしい。後半は、10月下旬までに基本書および参考図書を読了し、レポート課題1については11月中旬、レポート課題2については12月中旬までの初稿提出を目標とすることを勧める。9月下旬の最終提出直前に初稿を出すことのないよう、計画的に進めてほしい。</p>		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	80%	課題の問いかけを正確に読み取っているか。 課題に対する自らの考えを明確に根拠を持って述べているか。 論の根拠となる引用、参照について適切に開示しているか。
	平常評価	20%	タイムスケジュールを、提出締切から逆算して進めているか。 基本書以外の資料、書籍を探索する能力が確認できるか。 効率的かつ効果的なレポートのための工夫がみられるか。
履修者への要望	<p>昨今の巨大な企業問題の多くは、アカウンティング（会計）の分野から発生している。しかし、会計知識は専門家の領域と考えられ、自らとは無関係、または単なる簿記ルールと認識され、一歩進んでその背景にある世界的な覇権争いの流れや、その流れから生じて現代会計のベースとなっている現在価値計算のあやうさなどがあらためて考察されることは少ない。</p> <p>本講義では、そのような表面的なビジネスの理解からの脱却を図るため、歴史的なお金の計算の流れやその背景、会計基準をめぐるパワーゲームなどを理解するとともに、会計知識をグローバルに展開するための日本語の会計知識の英文会計知識への転換、また、実際の財務分析を通じた改善提案までの一連の実務的トレーニングを通じて、実務的にも使えるアカウンティング知識の習得を目指す。</p>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名： 田中 靖浩 教材名： 『会計の世界史イタリア, イギリス, アメリカ 500年の物語』日本経済新聞出版社 2018 ISBN: 978-4532322038 2,200円＋税
	歴史的な視点から、会計学の発展とその背景を、時代ごとにその中心的な役割を果たした人物と結び付けて整理した良書。ビジネスの共通言語である会計の歴史的な変遷と今日的な課題についてわかりやすく学ぶことができる。
参考図書	ジェイコブ・ソール 帳簿の世界史 ISBN: 978-4167910600 950円＋税
履修上のポイント	まず基本書をざっと読み、おおまかにアカウンティングに関する歴史的な流れを理解した上で、IFRSとUSGAAPの二大世界会計基準の覇権争いに関する書籍や資料にもあたって課題1に取り組むとよい。課題1にめどがついた時点で、現在価値会計に関する書籍や資料にあたり、自らが考えるミニプロジェクトの現在価値計算の試算体験によって、「将来キャッシュフローの現在価値を前提とする事業の価値」という通常疑問がわからないテーマについて「あれ？本当にこれでいいのかな？」という批判的な視点を養って課題2に取り組んでいただきたい。
レポート課題 1	「国際的な会計基準を決める立場にいる優位性」について、自身の考えを簡潔に述べるとともに、現在も続く世界的な会計基準の覇権争いの歴史について整理しなさい。 留意点： 基本教材をベースに、関連書籍、資料にもあたって思考を深めることが望ましい。
レポート課題 2	「現代会計の基本となっている現在価値計算」の問題点について、自身の考えを簡潔に述べるとともに、あなたが新しいビジネスプロジェクトを提案するという前提で、そのプロジェクトへの出資を得ることを目的とした、シンプルな現在価値計算モデルを提示しなさい。 留意点： 基本教材をベースに、関連書籍、資料にもあたって思考を深めることが望ましい。

基本教材 2	
教材の概要	著者名： 建宮 努 教材名： 『ゼロから始める！すぐに役立つ！英語の決算書の読み方』 アルク 2018 ISBN: 978-4757430815 1,800円＋税
	グローバル化時代の2つの共通言語、「会計」の基礎と関連する「英語」を同時に学習。会計知識を持たない人を対象に、英語の決算書の読み方について初学者がおさえるべき、かつビジネスですぐに役立つポイントを、1. 英語の決算書の基本的な読み方がわかる 2. 初学者でも理解しやすいように図解を多用 3. 仕事ですぐに役立つ知識を得られる、と言う3つの視点で整理。
参考図書	建宮 努 『ゼロからはじめる英文会計入門〈第3版〉』中央経済社 2015 ISBN-13: 978-4502166815 2,400円＋税
履修上のポイント	IFRSを採用している日本企業は、日本証券取引所のウェブサイトを確認することができ、順次増加している。(https://www.jpx.co.jp/listing/others/ifrs/index.html) 国内企業を選択を推奨する理由は、英語に不慣れな場合でも、同じ企業のまったく同じ内容の財務諸表の日本語版が入手できるため、英語の決算書の理解に翻訳が必要なくなるためである。課題1について、財務分析から改善策提案までの流れを練習した上で、自らの関連企業の決算書を読み改善策を練ることで、本講義の知識は、生きた使える知識となるはずである。
レポート課題 1	IFRS（国際財務報告基準）を採用している国内外の上場企業を1社選択し、その英文決算書を用いて基本的な財務分析計算（3年以上）を行った上で、当該企業の課題を指摘し、改善策を提案せよ。 留意点： 基本教材をベースに、関連書籍、資料にもあたって思考を深めることが望ましい。
レポート課題 2	自らが所属する企業または関係性のある企業（採用会計基準は問わない）の決算書を用いて基本的な財務分析計算を行い、当該企業の課題と原因、改善策について他者（当該企業の社員でなくとも可）とディスカッションを行い、その体験を通じて得られたものについて報告せよ。 留意点： 基本教材をベースに、関連書籍、資料にもあたって思考を深めることが望ましい。